

令和7年度 きゅうり 技術情報 No. 6

大船渡農業改良普及センター
電話:0192-27-9918 FAX:0192-27-9936



- ① 栽培が終了した圃場では、来年の伝染源を減らすために、**残さ処理、資材消毒**を実施しましょう。
- ② 土壌分析を実施し、来年の施肥設計に活用しましょう。
- ③ JA おおふなと管内では、例年ホモフシス根腐病の発生が確認されています。令和7年度の発生はほとんど見られませんが、急激なしおれや枯れ上がりの症状が見られた圃場では、土壌消毒などの対策を実施しましょう。

1 栽培終了後の管理

- ・ 病害虫の発生防止のために、栽培終了後の株はすき込まずに、**抜き取り、圃場外へ持ち出して処分**しましょう。
- ・ 褐斑病、炭疽病、べと病、黒星病が毎年多発する圃場では、支柱などの**資材消毒**を実施しましょう。

薬剤の例：ケミクロンG（参考：メーカー資料）

本剤はさまざまな病原菌（糸状菌、細菌、ウイルス）に対し有効です。

＜使い方＞

- ・ 1,000 倍液 → 10 分間浸漬
500 倍液 → ジョウロ散布または瞬間浸漬
- ・ 使用後は十分**水洗い**するとともに、風通しの良い場所で**乾燥**後、清潔に保ちましょう。

＜注意事項＞

- ・ 薬剤調整後は分解しやすいので、調整後 2～3 時間以内に消毒を終了しましょう。
- ・ 残液・廃液は、直射日光に 1～2 日さらし、有効成分の消失を確認してから徐々に排水するようにしましょう。
- ・ 使用前はラベルをよく読み、使用方法を守りましょう。

- ・ 来年の施肥設計のために、**土壌分析**を行いましょう。土壌分析は継続して行うことで、圃場の養分状態の変化を数値で確認することができます。JA おおふなときゅうり部会員の皆さんは無料で実施することができます。詳細は JA おおふなとへお問い合わせください。

2 ホモブシス根腐病について

- 今年度は、高温が続いたため発生はほとんど見られませんでしたでしたが、引き続き注意は必要です。
- 収穫開始から8月にかけて発生が多くなります。収穫初期では、日中に**葉が萎れ**、夕方に回復します。萎れと回復を繰り返すうちに、徐々に**下葉から枯れ上がります**（図1）。
- **土壌伝染性で空気伝染はしません。汚染圃場の土が人や機械を介して移動し伝染します。**
- 対策は、**土壌消毒、土壌 pH の改良（目標 pH 7.5）**です。
- 他の生産者の圃場を訪問する際は、**靴カバー**やビニール袋で靴を覆う等、病原菌の伝染拡大防止に努めましょう。
- **栽培終了後に放置しておく**と**根で病原菌が増殖し、次作の伝染源**となります。栽培終了後は、きゅうりの根を速やかに抜き取り、図2のような根の状態になっていないか確認してください。疑わしい症状が見られた場合や、次年度の作付けに不安がある場合は、JA または普及センターに相談してください。



日中は葉が萎れる



病気が進行し、枯れた株

図1 ホモブシス根腐病が発生したほ場



感染初期（細根脱落部が褐変）



感染末期（黒色の偽子座が形成）

図2 ホモブシス根腐病の根の病徴

★いわてアグリベンチャーネット URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>

岩手県からのお知らせに加えて、農業技術情報や病害虫に関する情報、各地域の情報など盛りだくさんです。ぜひご覧ください！！

★9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間

農業機械の基本操作を守り、無理のないスケジュールで作業を行いましょう。

令和7年度岩手県農作業安全スローガン「忘れずに！点検・確認・安全管理 無事故で終える収穫作業」